

「双京構想」に関する有識者懇話会 概要

1. 日 時 平成25年1月21日(月)午後1時30分～午後3時30分
2. 場 所 ホテルグランヴィア京都 古今の間
3. 出席者
 - (有識者) 津川 雅彦 俳優
 - 所 功 京都産業大学名誉教授
 - 中村 宗哲 塗師
 - 芳賀 徹 国際日本文化研究センター、東京大学名誉教授
 - 冷泉 貴実子 公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事・事務局長
 - (進行役) 直野 信之 京都新聞総合研究所特別理事
 - (未来懇) 山田 啓二 京都府知事
 - 門川 大作 京都市長
 - 柏原 康夫 京都府観光連盟会長・京都市観光協会会長

4. 概 要

- (1) 趣旨説明
- (2) 懇談(以下は、有識者からの主な意見等)

【双京構想の趣旨・意義について】

- 日本全国どこも危ないのだから、首都直下型地震などへの備えということを前面に出すのは良くない。文化の東京一極集中を避けるためというのがいい。
これによって、南北朝現象(皇室の分離)を招いてはならない。
- 「皇族の一部の方に」というのは遠慮し過ぎ。両陛下にこそ、もっと頻りに京都へお越しいただき、長期滞在していただいて、いろいろなことを発信いただきたい。
- 重要な点は、京都が日本のために役立つこと。京都にとって都合がいい、大事だというのではなく、それが日本全体のために非常に良いことだという構想でないため。
- 日本が世界で優れている思いやりや助け合いの心、みんなで育てていく文化を見直すべき。その存在感は、京都でこそ大いに発揮される。それが日本だけでなく世界のためになるという意気込みで取り組むべき。
- 京都に皇族が来られれば、文化面でもつながりができ、伝統的なものづくりなども発展していけるのではないか。

【お住まい(滞在)いただくために必要なことについて】

- 景観整備等をしっかりとやって、陛下に来ていただいても恥ずかしくない京都にすることが大事。
- 即やるべきことは建物。お住まいどころか滞在していただくだけでも今の宮御所では無理。恐縮。ちゃんとした居住環境を整備することが重要。

【皇室の行事等について】

- 即位の礼には、国内外から百数十ヶ国の方がお越しになり、受入体制やアクセスの面で東京がふさわしいというのはわかるが、大嘗祭は国内のしかるべき方だけが参列する行事であり、大正・昭和は京都でやった実績がある。平成の時もしつらえ等は京都の伝統工芸の方が手伝われたこともあり、大嘗祭は京都で行う方がふさわしい。即位の礼は東京、大嘗祭は京都でというのが理解されやすいのではないか。
- 陛下にお元気でいてもらいたいので、京都へいらっしゃることが陛下のご公務を減らすことにつながることを望ましいのではないか。
- 前侍従長と前長官など、側近がご公務を減らしたいと言っても陛下ご自身が減らされない。ただ、宮中祭祀である新嘗祭は、深夜4時間神嘉殿の中でおやりになり、体力的にも大変で、時間短縮ということで御納得いただきつつあるので、国事行為の代行規程もあるので、ご公務の数は減らさず中身を縮小する方向は可能かと思う。
- 陛下はまもなく80歳で、ご公務が本当にこのままでいいのか心配。摂政機能は皇室典範にもあるが、非常に適応しにくい。東京に移られてもうすぐ150年。ちょうど陛下も85歳になられるので、それを節目として摂政をおける規定を設けるなどして、ご公務を皇太子に委ねられてはどうか。
- 春と秋の園遊会は、できれば秋は京都でやってほしい。借景を含めておもてなししていただける。明治の初めには京都で観桜会もあった。
- 歌会始や講書始も京都で。迎賓館ならスペースもあるし、京都は学習院の発祥の地であり、学問の場所としては京都の方がふさわしい。
- 京都でされるなら、和服でなさるのがいい。宮中の儀式も京都で行う方がいい。その間は、仙洞御所にお住まいいただくのはどうか。
- 春と秋、生存者叙勲が各省庁別に1週間程度皇居で行われるが、これをゆったりと2週間かけて、一日おきに実施され、前後2～3週間京都にご滞在いただくのがよい。秋だけでも京都でゆったりとやっていただくのもよい。叙勲を受ける方も京都の方が喜ばれるだろうし、京都を知ってもらえる。